

第三回栄区歴史双六探訪 副題 栄地域史蹟探究

平成 17 年 1 月 16 日 (日) ふじやま公園長屋門 9:50 集合 雨天順延

平成 17 年 6 月 13 日 (日) 再訪・ふじやま公園長屋門 9:50 集合 雨天順延

出発時間 10:00

10:20

10:30

ふじやま公園長屋門－(鍛冶ヶ谷八幡社)－ふじやま富士講碑－小坪街道－(日枝神社)－

10:45

11:10

11:20

11:35

11:50

相武国境碑－(コボトリ休憩)－七曲がり開拓碑－七曲がり旧道－鍛冶ヶ谷坂古道－

12:00

13:00

14:00

14:15

鍛冶ヶ谷相武国境古道(昼食)－鍛冶ヶ谷坂古道－宮ノ前横穴墓－鍛冶ヶ谷村名主柳下家－

14:30

14:30

道祖供養道標・北の大道－(正翁寺)－(中居丸山の横穴墓)－解散

[注] () は今回割愛し、鍛冶ヶ谷の古道を重点にしました。

ひとくちメモ

①(29)鍛冶ヶ谷八幡 鍛冶ヶ谷町 1-20

創建鎌倉時代ともいう確かならず、天正 8 年(1580)修造の棟札あり、祭神応神天皇、速玉男命、素戔鳴尊。鍛冶ヶ谷の王子社・天王社を合祀、境内に幾つかの庚申塔あり、寛文 8 年(1668)阿弥陀庚申塔は本郷で一番古い庚申塔。拝殿の袖に弓矢を持った応神天皇と竹内宿禰に抱かれた応神天皇が刻まれている。

②○本郷ふじやま公園富士講碑 鍛冶ヶ谷 1-20

公園の山頂標高 80 m に 3 基の自然石の碑が建つ、中央に(参明藤開山)右に(南無妙法蓮華經)左に(食行身録杓菩薩)とある、寄進者の刻銘等から類推して造年は弘化年間(1844~1847)と推定される、講中の刻銘は鍛冶ヶ谷・中野・上野・小菅ヶ谷・桂・公田・今泉がある。

昭和 40 年(1965)頃までは毎年 7 月 24 日の草刈や 8 月 1 日には祝詞を上げていた。

昔は現在地に数メートル盛り土をしてその上に碑がおいてあった、頂上には這いずってあがるようだった、地震で盛り土部分が崩れ碑を現在地に置き直した。

○小坪街道

③○子の神日枝神社 若竹町 31

中野町の鎮守です。農業の神様としても信仰されています。

④○相武国境 元大橋 1-1

元大橋公園に新しく作られた相武国境の標柱がある。この上の尾根が相模と武蔵の国境で、今は栄区と港南区の区境です。

⑤○七曲がり開拓碑 鍛冶ヶ谷 1-32 先

七曲がりバス停から30～40m程坂を上った右の山の際に建つ。

⑥○七曲がり旧道

七曲がりバス停から20～30m程坂を上った右から下る道が旧道の名残である。バス通りは開拓の切り通しでこの分かれ道からバス通りの切り通しになぞって山道があり7～8mの高所を緩れ折に山越えして日野に向かった。

○鍛冶ヶ谷坂古道

眺望良し、古民家・東谷戸の全景が見渡せます。

○鍛冶ヶ谷相武国境古道

⑦○宮ノ前横穴墓 鍛冶ヶ谷 2-27 先

柳下家敷地の竹藪、7世紀後半から8世紀初頭と思われる横穴墓跡25基以上が現存し手斧の跡も見事に残されている。羨門がアーチ形が多く方形もある、奥壁に棺室の付いたものもある。ものなど丁寧な作りのものもある。

⑧○鍛冶ヶ谷村の有力者柳下家 鍛冶ヶ谷 2-26

小岩井家・大谷家と共に鍛冶ヶ谷の名主です。

⑨○道祖供養碑道標

〔安政6年(1859)神奈川港(後の横浜港)開港される〕これより2年後、民費により巾七尺距離百二十三間の鍛冶ヶ谷大道北通りが完成、この地に文久元年(1861)道祖供養碑道標が造立され“ぐみようじ横浜道”と刻まれている。平成11年11月1日横浜市地域有形文化財指定となる。

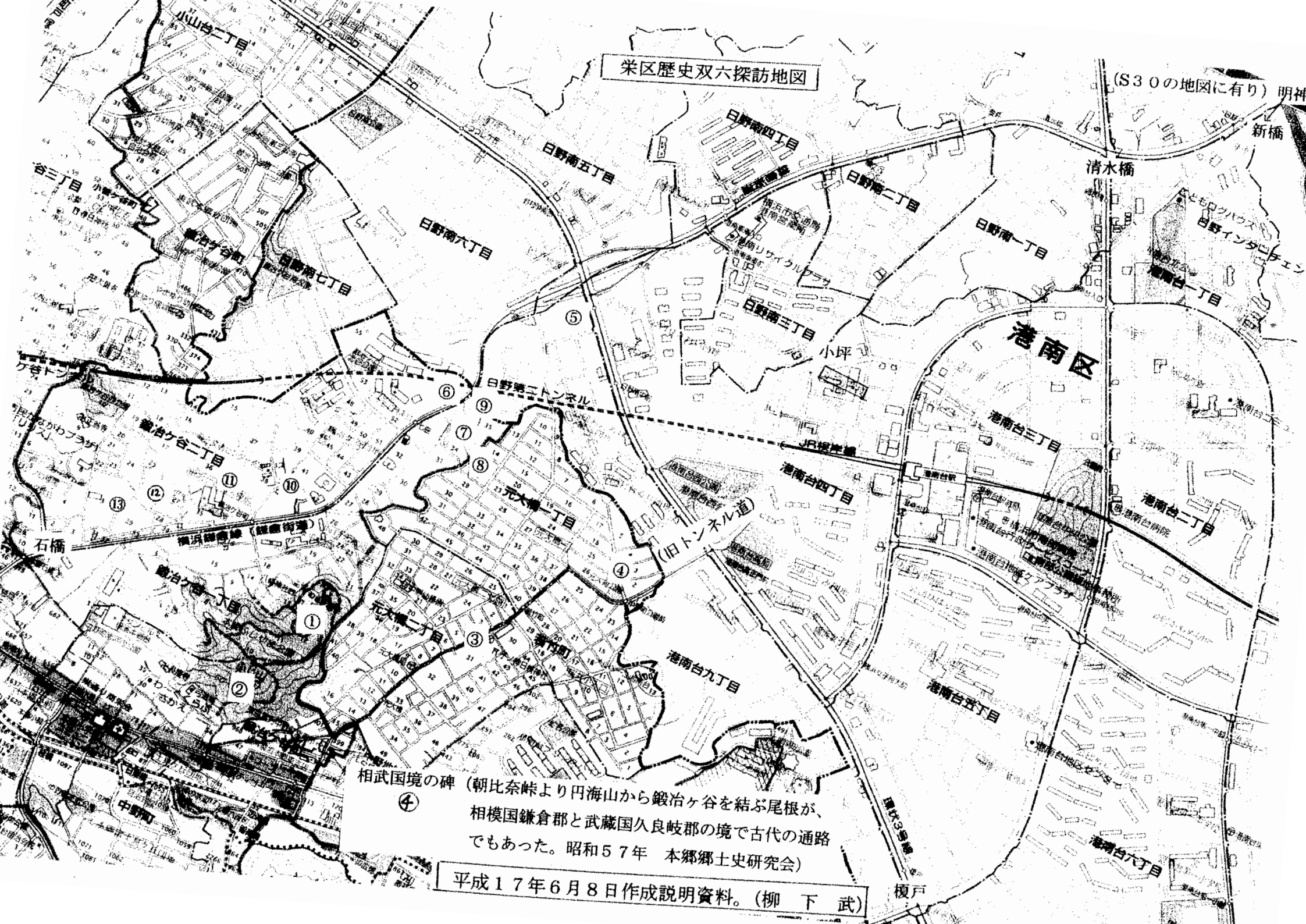
⑩○曹洞宗本郷山正翁寺 鍛冶ヶ谷 2-9

永禄7年伊勢から移り住んだ大谷氏が僧月聖を招き一族のため正翁庵を開創、慶長六年(1601)正翁禅寺として開いたという、本尊虚空菩薩。

⑪○中居丸山にも横穴墓があった。

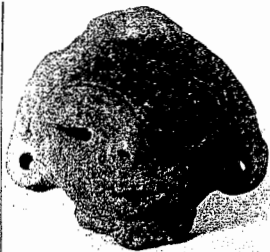
栄区歴史双六探訪地図

(S30の地図に有り) 明神



相武国境の碑 (朝比奈峠より円海山から鍛冶ヶ谷を結ぶ尾根が、
相模国鎌倉郡と武蔵国久良岐郡の境で古代の通路
でもあった。昭和57年 本郷郷土史研究会)

平成17年6月8日作成説明資料。(柳 下 武)



人面把手
(栄区公田町出土)

栄地域史研究会 会報

(第3号：平成17年春号)

平成17年4月20日

栄地域史研究会

七曲り道は文明開化の道

栄区の東半分を占める本郷地区は明治の初めまでは東と南北の3方が山に囲まれ、西方の小管ヶ谷を南北に通る鎌倉・ぐみようじ道があるものの、直接外と通じる道は山の中に細々とした生活通路があるだけでした。幕末の文政4年(1821)「村中明細帳」(小岩井家文書)によると、鍛冶ヶ谷村の年貢は武州久良岐郡杉田村に出すとあり、道のりは2里余りとあります。現上郷高校の脇の猿田坂を登り尾根道を金沢方面に馬で行かれる道がありましたが、平易な道ではなかったと想像します。現在の原宿六浦道の開通は昭和も20年近くになってからのことです。

明治になってこの地に横浜の文明をもたらしとも言える道。現在は鍛冶ヶ谷地区を南北に貫通する大動脈である県道「鎌倉街道」の歴史を振り返り、先人の功績を偲びたいと思います。

安政5年(1858)日米修好通商条約が結ばれ、横浜の港が開かれると物価は高騰し、激しい経済混乱の中、3年後の文久元年(1861)鍛冶ヶ谷村では近隣の村々と協議し村内の大道と言うべき「北の大道」を大人や若者が土運び等をして造成している。現在の本郷石橋付近から北に伸びる道で、長さ123間(約220m)幅7尺と記録にあります。現在も鍛冶ヶ谷2丁目30に残っている道祖供養塔はこの時のもので、右ぐみようじ横浜道、左かまくら道と刻まれ、すでに横浜への物の運搬を考えた上で、道祖神を祀ったものでしょう。平成11年に横浜市の地域文化財として登録されました。

この北の大道の先、相武国境の尾根道に登るには2本の道があり、皇国地誌(明治15年頃編)には「1本は西谷(以礼)から東北へ四町二十間で嶺上に達し日野村に通じ、もう1本は南方字味噌野から北へ三町二十間で嶺に至る共に易にして迂ならず」とあります。西谷からの道は一本松へしようめん坂を登り、味噌野からの道は現在の鎌倉街道の東側で、つづら折れで荷車などは通れない鍛冶ヶ谷坂の道と思われます。

一方鍛冶ヶ谷村とは別に、明治9年中野村の関半二郎と上野村の森徳兵衛は私財を投じて中野村の大橋谷戸から相武国境を越えて日野の清水橋で現在の鎌倉街道に合する日野峠道を造りました。総延長およそ900間(約1.6km)で、港南台高校付近にはトンネルを掘り頂上部分に穴を開け2間4方の洞穴として馬や荷車も通れ、開通により横浜方面に当地の薪、炭、米、麦、栗、梅干やパイスケなどの竹製品を運び、帰りに下肥を持ち帰ったと言います。しかし、トンネルの前後が急坂で雨の時などはひどい泥濘となって数日乾かず、往来に苦労したそうです。トンネルは関東大震災で崩落し現在のような切り通し道に改められました。

明治10年5月、鍛冶ヶ谷村では直接日野へ通じる道の計画を県に出願、7月に許可が下りました。石橋から東谷戸の山裾を迂回し(いわゆる七曲り)村の北奥の原塚山を開削して日野の明神橋に至る延長31町32間(約3.4km)の道で、農道や用水の変更等の同意が得られ、出来るだけ勾配を緩やかにし、水はけも考えられ、雨の時でも通行出来るように砂利を充分敷きつめ、道幅2間は車馬の通交も出来、大いに便利になりました。峠には茶屋と馬の水飲み場も造られました。

明治12年2月の竣工時に建てられた開拓記念碑が今でも峠近くにありCブロックの会員で拓本も採り、解説しました。

「鎌倉道なるべし、日野嶺山道の険しいところを、鍛冶ヶ谷の村人小岩井氏、柳下氏等、沿道の義を好む者に謀りて北より新たに開き、その両辺の高さ10間、長さ75間を削る。等と費用は1900円なるも県庁よりは若干金にて、その余は皆義損と言うなり。(略) (うらに蔵く)

横浜毎日新聞
明治十年七月十四日

○方今道路開拓の盛んなるや先に本紙千九百七十七號に相州鎌倉郡鍛冶屋村より日野村へ通ふ一里餘の山路を鍛冶屋村小岩井善六の發意により數十丈と切下る其工半ばよふと記せしが今又一報を得るを以て同地より將近傍にや其程の確證せざれと報知に倣て茲に載す
横濱より鎌倉への通路は武相の國境に跨る日野嶺の險難ありて超過の旅人駭馬と云ふ殆んど其險阻なるに因し時として人馬とも路間を墜落し損傷する者渺ならず此地の難路なる事近傍奉て知らざるのなし然るに鎌倉郡中野村の住職半次郎といふ者夙に此開策に焦慮し昨九年七月頃自費を以て開拓せん事を縣廳へ上申し御指令を賜りて速時々着手其案の巧みなるや嶺より少しく距たりたる國境一の高山を凡そ廿五間程隧道を穿ち尙前後十五丁程新道を開築せしが本年五月頃全く落成當日の險難に比すれば通路の易さ一夢の如く接近の者いふも更なり該地を常に經過する者各々其便なるを言ひざるの無しと

表面：神奈川県大書記官 從六位 磯貝 静藏、
 神奈川県二等官 奥村 精一
 文を撰す 安田 米斎 欄外に記載 杉山 長次
 裏面：神奈川県土木課 鈴木 重実
 神奈川県 16 大区 11 小区 相模国鎌倉郡鍛冶ヶ谷村
 戸長 小岩井 六郎兵衛
 村内 6 人 鎌倉有志連社 3 人
 武蔵国久良岐郡日野村 志願人社中 7 人
 台座：砂利寄付社中 18 人
 新道開拓寄付連名 69 人 左面に同じく 26 人]

以上合計 130 人が寄付しています。地区は大船、岩瀬、山崎、杉田、小菅ヶ谷、笠間、今泉、上野庭、桂、公田、鍛冶ヶ谷等が読み取れるが、判読出来ない箇所もあります。

この七曲の新道開設で潰された土地は六反余、約 8 割が日野村で 2 割が鍛冶ヶ谷村。横浜側の犠牲の方が大きかった訳である。また、工事費では小岩井と柳下の 2 名は 250 円 22 銭づつの寄付をし、川瀬も 300 円の寄付を出し、それぞれ県知事から表彰され、銀杯が下賜されています。

七曲り道が開拓されてもその前後の道が整備されなければ交通に支障が出ることになり、七曲り道の開設後直ちに、石橋～天神橋間の道路変更を願い出て明治 12 年 4 月に許可されています。延長 96 間余（約 170 m）のくねくねと曲がった道を真っ直ぐに付け替えるため、旧道の土地を新道の潰れ分として下げ渡ししてほしいというもので、この工事は自費で行ない、小岩井善六郎と柳下勝右衛門は各々 11 円 25 銭を寄付し、県知事から表彰と木杯を下賜されています。他に 10 円未満の寄付者が 27 人おり、各々褒詞状が授与されています。

明治 21 年には日野村の高梨右衛門と鍛冶ヶ谷の小岩井六郎兵衛が主唱し、近隣 7 ヶ村の有志が世話人で、同じく 22 ヶ村民の協力により、鎌倉街道の笹下（現上大岡の西）に岡本橋を架け、横浜との往来が一層便利になり、その功績が記念碑（明治 23 年建立）に刻まれています。

これらの道の完成で、当地から弘明寺や蒔田まで野菜や米、旬の木の芽、筍、竹製品等の商いに出、帰りは下肥を持ち帰り現金収入を得ていました。この下肥販売は西側の藤沢方面の農業生産にも寄与し、これらの桶を作る人も当地に来ています。朝横浜方面への商いに出る母親の車の後押しや、夕方七曲りまで迎えに出て、母親を車に乗せて坂を下って来るのが子供の日課でした。

大正 6 年には個人営業の自動車（50 銭）が石橋と弘明寺間（50 銭）を走り、同 10 年には弘明寺～本郷～鎌倉小町にバスが運行を開始している。（相武自動車会社＝現神奈川中央交通の前身）

昭和 7 年には現在の鎌倉街道に近い姿となる直線化工事が始まり、七曲り道が陰に隠れてしまいました。石橋から横浜方面に歩くと、トミヤの前を左に平行し、ホンダ、アリガ動物病院の裏を過ぎてから県道と合流、NTT の信号から右の坂を下り、ヤクルトを右に見ながら登る坂がその道です。今は左右はマンションばかりになってしまいましたが。

昭和 8 年七曲り地先で相武バスの横転事故があり大勢の負傷者が出たという惨事もありました。（C ブロック報告より）



会 員 募 集

（鉄田 TEL 045-893-5867）

当地は歴史の宝庫、あなたの生きがいを地域史の新たな発掘に！